



大河原文庫寄贈者プロフィール

大河原 良雄 (おおかわら よしお)

大正8年2月5日(1919)群馬県安中市中宿に生まれる。

埼玉県立浦和中学校卒、第一高等学校卒、東京帝国大学法学部卒、高等試験行政科試験合格、外務省入省、駐豪大使、駐米大使、退官後(財)日米協会々長、(財)世界平和研究所理事長等の要職を歴任、勲一等瑞宝章、紺綬褒章を受賞。

大河原良雄氏は、1941年、東京帝国大学在学中に真珠湾攻撃(昭和16年12月8日)の報に接した。

1942年外務省に入省直後、海軍経理学校に入校、翌1943年2月に海軍主計中尉としてラバウルに出陣する。第八根拠地隊司令部付、南東方面艦隊司令部付として勤務し、終戦後はしばらくラバウルにて豪州軍との連絡将校として勤務した。

1947年4月に帰国、外務省に復帰し、米国占領下では、連絡調整中央事務局に勤務した。

1949年、通産省に出向し、1951年7月からガリオア資金で米国に留学、1952年に帰国後、外務省経済局に勤務し、1954年8月在連合王国大使館に勤務する。次いで1956年11月在フィリピン日本大使館に赴任する。

1958年帰国後、外務省国際協力局及び国連局を経て、1960年12月より第二次池田内閣において小坂善太郎外務大臣秘書官を務める。

1962年8月から一年間、米国ハーバード大学国際問題研究所の研究員をして、1965年 外務省大臣官房人事課長。

1967年11月 外務省北米局参事官。

1971年2月 特命全権公使 アメリカ合衆国日本大使館。

1972年9月 アメリカ局長。

1974年6月 外務大臣官房長。

1976年1月 特命全権大使 オーストラリア国駐筭、

6月 兼フィジー国駐筭、兼ナウル国駐筭。

1980年1月 特命全権大使 アメリカ合衆国駐筭。

1985年4月 外務省退官、6月同顧問。

一貫して、対米外交に携わる要職に就き、1963年7月には在米大使館経済担当参事官となり、日米官民合同会議や利子平衡税等通商関係を手掛ける。1967年より外務省アメリカ局参事官として、沖縄返還交渉に携わり、1971年1月からの在アメリカ

カ特命全権公使時代には、ニクソン・ショック見舞われている。1972年9月からは、本省アメリカ局長として、空母ミッドウェーの基地問題に取り組んだ。1980年から1985年のアメリカ大使時代には、日本側で大平—鈴木—中曽根という内閣交代がみられ、アメリカ側のカーターからレーガン共和党政権への交代の中で、日米関係の増進に格別の努力が求められた。特に1980年代、日米安全保障関係や日米経済摩擦への対応では、米国のカウンターパートとの交流や議会への働きかけを積極的に行うとともに、あまねく全米50州を訪れるなど、緊密な日米関係の構築に尽力した。

大河原良雄氏のオーラルヒストリーの特徴は、日米関係の歴史を、第二次世界大戦中から、戦後の占領期、更にその後の日米外交史(沖縄返還交渉、安全保障関係の強化、経済摩擦の打開等)を一人の外交官を通して、垣間見ることが出来る点である。

大河原良雄氏は退官後、(財)日米協会々長、(財)世界平和研究所 理事長の要職を務めた。

2012年、安中市へ安中市中宿の生家建物、屋敷、敷地(520余坪)を寄附し、安中市功労者・善行者表彰を受けた。(その敷地に安中第1区が2013年に中宿公民館を新たに建設した)

2018年3月29日永眠、99歳。同7月2日ホテルオークラ東京にて『大河原良雄元駐米日本国大使を偲ぶ会』(発起人代表中曽根康弘)が執りおこなわれた。

大河原良雄氏の著書等

- ・『オーラルヒストリー 日米外交』ジャパントイムス 2006年
- ・『一大使の直言—孤立化を避けるために』世界の動き社 1985年
- ・『日米大転換の時』講談社 1990年
- ・『日本の品格—世界から求められるもの』光文社 1990年
- ・『世界への窓—信濃毎日新聞コラム「今日の視角」より』信濃毎日新聞社 2011年
- ・『ワシントンから見た日米関係』日本国際問題研究所国際問題講演録 No.43 1985年
- ・『アメリカ在勤を終えて』日本経済調査協議会日経調資料 4 1985年
- ・『黒字国日本の国際責任』尾崎行雄記念財団 1986年
- ・大河原良雄ほか『米国と日本:世界の平和と繁栄のためのリーダーシップ:日米協力に関する6人委員会共同報告』日本国際交流センター 1989年
- ・『日本の品格:世界から求められるもの』光文社カッパ・ホームズ 1990年
- ・okawara, Yoshio “To Avoid Isolation: an Ambassador’s View of U.S./Japanese Relations” University of South Carolina Press, Columbia, S.C. 1990
- ・大河原良雄・奥宮正武・豊田穰(鼎談)「われら「南十字星」の下でかく戦えり—ミッドウェー以後最大の戦場となった南太平洋での戦いが教えるものは」『プレジデント』28(3) 1990年3月号
- ・大河原良雄「日本たたき」の裏側にあるもの(視点)』『日経ビジネス』645 1992年6月号

引用文献 <http://www3.grips.ac.jp/~oral/Japanese/Summary/ookawara.htm>

引用画像 http://www.gfj.jp/jpn/outline/governors_list.htm